

図書館報

ぶらっつ★

篠崎

042号

特集「たたかう人達」

- そのメロディに魅せられて♪
P3 「PANTA from 頭脳警察 meets フランク・ザッパ」
- 人物ブックマーク
P4 「アントニ・ガウディ」
- スタッフのセレクション！
P4 「注目すべき125通の手紙」

イベントレポート

「ジョジョの奇妙な冒険」で英語力アップ！

去る4月11日（土）に英語音読講座『「ジョジョの奇妙な冒険」で英語を叫ぶッ！』を開催しました。講師は昨年出版された『「ジョジョの奇妙な冒険」で英語を学ぶッ！』（北浦尚彦訳・文／集英社／篠崎ほか所蔵）で翻訳を担当した北浦尚彦さん。英語の講師などを経て、現在は外国政府系の貿易促進機関に勤務している英語のエキスパートです。当日は、ジョジョファンを始め、たくさんの方に参加していただきました。

講座のスタイルは、まず北浦さんが著書から厳選した台詞を音読した後、参加者の皆さんが同じ台詞を音読するというものでした。音読に慣れてきた頃、お一人ずつ好きな日

本語台詞をレジュメから選んで叫び、その後全員で英訳台詞を発音するというスタイルに変わりました。「おれが裁く」「おまえは今まで食べたパンの枚数をおぼえているのか？」といった日本語台詞を、声優顔負けの声で気合いの入った音読をする方もいました。音読後の質疑応答では多数の質問が飛び交い、大盛況のうちに幕を閉じました。

篠崎図書館では今後も講演会や映画会など、様々なイベントを予定しております。図書館作成のチラシや広報えどがわなどをご覧いただき、気になったイベントがございましたら、ぜひご参加ください。



英語音読講座「ジョジョの奇妙な冒険」で英語を叫ぶッ！

講師：北浦尚彦さん
（翻訳・英会話サポート）
実施日：4月11日（土）
14:00～15:30
場所：篠崎文化プラザ 講義室
参加者：42名

江戸川まいにんぐ 発掘 第42回 「江戸川区といえば朝顔!？」

江戸川区内のイベントやスポットを、スタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。

入谷の朝顔市といえば、毎年40万人の人出で賑わう都内でも有名な朝顔市です。そんな朝顔市に並ぶ朝顔の7割近くが江戸川区産であるということ、みなさん、ご存知でしたでしょうか。江戸川区は都内でも花卉栽培が盛んな土地なのです。

朝顔は、奈良時代の末頃に遣唐使によって中国から日本へ持ち込まれました。当初は下剤や利尿剤として使用するために栽培されていたそうですが、その後、江戸時代に植物の園芸化が進んだことで、朝顔も観賞用として栽培されるようになりました。

江戸川区の歴史の中で朝顔が登場するのは第2次大戦後、

花生産の主流が大杉方面や瑞江方面から鹿骨地区になってからのことです。今から約70年ほど前に、盆栽や洋花等とともに、朝顔の生産、販売が行われるようになったのです。

そんな江戸川区で、平成2年から始まった「小岩あさがお市」が今年も7月12日（日）に開催されます。家族で朝顔市へ行き、一鉢買ってみたいはいかがでしょうか。水滴に輝く朝顔を見れば、うだるような暑さも、きっと吹っ飛ばしてくれますよ！

朝顔や少しの間にて美しき 才磨
君が扇の風朝顔にとどく哉 一茶



昨年の「小岩あさがお市」

参考資料

「朝顔百科」	朝顔百科編集委員会編	誠文堂新光社	627ア	篠崎ほか所蔵
「むかしの江戸川区」	江戸川区郷土資料室編	江戸川区郷土資料室	K1-21	篠崎ほか所蔵
「江戸川区の史跡と名所」	江戸川区教育委員会事務局	江戸川区教育委員会	K1-29	篠崎ほか所蔵
	生涯学習課文化財係編			

バリアフリー映画会

「天国からのエール」

（2011年 公開作品）

監督：熊澤賢人
出演：阿部寛、ミムラほか
※字幕と副音声の入ったバリアフリー仕様で上映します。

7月25日（土）

14時 開演（13時30分 開場）

場所：篠崎文化プラザ 講義室
定員：50名（事前申込み制）
7月4日（土）14：00から図書館カウンターまたはお電話にて受付します。
協力：住友商事

沖縄で小さな弁当屋を営む陽は、地元の高校生たちがバンドの練習場所がなくて困っていることを知り、弁当屋のガレージをスタジオにすることに。病に冒されたひとりの男性が、自らの余命を知りながらも、音楽を志す若者のために無料の音楽スタジオを作ったという実話を映画化。

人物ブックマーク

人物ブックマークとは、著名人とその著作および関連本を紹介するコーナーです。

第三十一葉 アントニ・ガウディ

アントニ・ガウディは世界遺産サグラダ・ファミリアなどの作品で知られるスペインの建築家です。

ガウディが活躍した当時、多くの建築家は設計図を作り、あとは現場の人たちに作業を任せていました。しかし、ガウディは自ら建築現場に行き、細かく指示を出し、時には自分で内装などを手掛けました。また、その頃の建築物が直線的で地味なものが多かった中、彼の作品は、外装は奇抜でカラフル、内装は細部に至るまで彫刻等で趣向が凝らされていて、多くの人々に注目されました。

現在も未完で工事中の教会サグラダ・ファミリアにガウディが携わるのは1883年31歳の頃。以来、他の仕事もしながら、サグラダ・ファミリアの建築に取り組みました。1925年にはこの聖堂の地下に移り住み、建物の完成に向け精力を注ぎます。しかし、その1年後、市電にはねられ、そのまま息をひきとりました。偉大な建築家の突然の死は、人々に大きな悲しみと衝撃を与えました。



サグラダ・ファミリア



カザ・ミラ

ミラ家の住宅&賃貸マンションとして建てられた作品。その波打つような奇抜な外観は市民を驚かせました。

関連書

「もっと知りたいガウディ」

入江 正之著 東京美術 523イ 篠崎ほか所蔵

「バルセロナのガウディ建築案内」

丹下 敏明著 平凡社 523タ 篠崎ほか所蔵

スタッフのセレクション

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

「注目すべき125通の手紙」 ショーン・アッシャー編 創元社 908チ 篠崎ほか所蔵

他人の手紙を読むということは、ちょっと申し訳ない気分もするが面白い。さらにそれが有名人だったりすると尚更だ。ここには本当に特別な手紙が125通収められている。歴史を変えた事件の当事者、著名な科学者や芸能人たちの私信が、現物や当人の写真などとともに紹介されている。当時の時代背景、その手紙によって何が起こったか(または起きなかったか)という事の顛末が付いているのも楽しい。

例えばミック・ジャガーがアンディ・ウォーホルにアルバムジャケットのデザインを依頼した手紙。できるだけシンプルなものを……と頼んでいるのに彼の希望は全く無視され、刺激的で複雑なものが出来上がったらしい。時の権力者の人間味溢れる文章も魅力的だ。ロナルド・レーガンが結婚する息子に宛てた手紙では「真の立派さとは自分の男らしさも魅力

もたったひとりの女性に生涯示し続けていくという挑戦にある」として、「自分のいびきを聞かれ、無精ひげの伸びた顔を見られ(中略)汚れた下着を洗ってもら。そういう女性にいつまでも魅力的だと思われ、愛され続けることには相当の努力が必要だ」と説く。また、物理学者ファインマンが25歳で亡くなった妻に書いた手紙には、いかに心の底から彼女を愛しているかが切々と語られ、何度読んでも涙腺が崩壊するのを禁じ得ない。

この本はちょっと大きくて重い。持って帰るのが億劫だなと躊躇するかもしれない。でも、それに見合うだけの楽しさと感動を味わえると思う。それに、有名人の例ばかり出しておいで今更だが、ここに紹介できなかった無名の人々の手紙が、またすこぶる面白いのだ！

編集後記

いつも食欲とのたたかいに負けて、ダイエットに失敗しているので、今年こそ勝って腹筋を割ります。(風雲ふわふわ丸) / 毎年夏になると蚊とのたたかいが始まります。今年は安眠できる夏でありますように。(かき氷職人) / たたかいたい! という熱い気持ちはありますが、体damageでかすぎるので、静かにしています。(M.弱尊)

編集・発行: 江戸川区立篠崎図書館

住所: 〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19

篠崎文化プラザ内

TEL: 03-3670-9102

[しのぎ文化プラザHP]内篠崎図書館ページ

<http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>